

食物経口負荷試験に関する説明

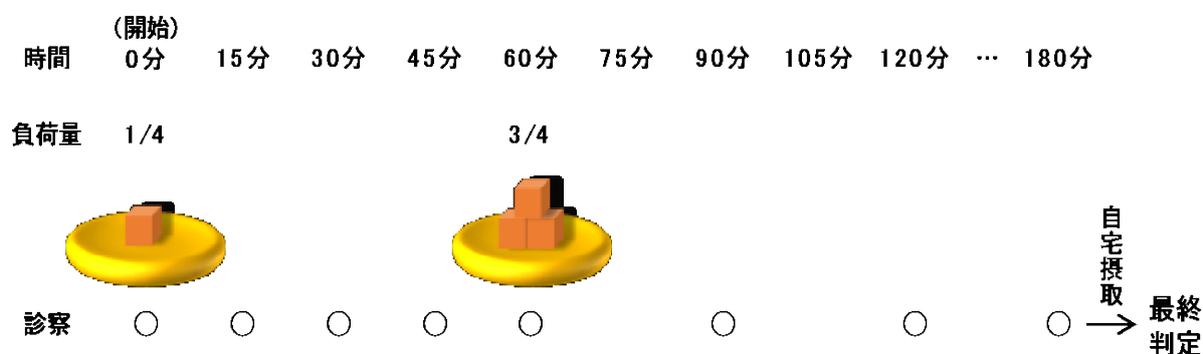
はじめに

食物アレルギーが疑われたとき、血液検査や皮膚テストは参考になりますが、それだけでは、その食品を実際に食べることができるのか、重症な症状がでるかは分かりません。また、たくさん食べて症状が出たことがある場合でも、少ない量であれば、症状なく食べられることがあります。

そのため、実際に食べてみて症状が出るかを確認する 食物経口負荷試験（負荷試験）が、食物アレルギーの正確な診断のために必要な検査になっています。

食物経口負荷試験の方法

食物アレルギーが疑われる食品を、1回で または 下記のように数回に分けて食べます。明らかなアレルギー症状が出た時点で陽性と判定して、負荷試験は中止します。必要に応じて内服薬、吸入薬、注射などで治療します。



食物経口負荷試験で出る症状の危険性について

・ 負荷試験を受けた方の約1~3割の方に、何らかの症状が出ます。

蕁麻疹などの皮膚症状だけのこともあれば、嘔吐・下痢などの消化器症状や、咳・喘鳴などの呼吸器症状が出ることもあります(アナフィラキシー)。

より重篤な状態として、血圧の低下やぐったりするなどの症状が出ることもあります(アナフィラキシーショック)。

・ 症状に応じて治療を行えるように十分な準備をして試験を行っています。

当院では、この負荷試験で現在まで死亡事故や後遺症を残した例はありません。

医師は負荷試験を行う前に症状が出るリスクを判断し、お子さんが負荷試験を受けることで得られる利益が症状誘発のリスクより大きいと判断できる場合に実施します。

- 症状が出たときに飲む薬
- 嘔吐したときのための着替え
- (牛乳など液体の負荷試験の場合) マグカップや哺乳瓶など本人が使い慣れたもの
- フォークやお皿、コップ類はご持参ください。
- お気に入りのオモチャや絵本など

集合時間

当日は () 時までに小児科外来にお越しください。遅刻された場合は負荷試験を延期させていただきます。

注意事項 (必ずご覧ください)

- おなかが減っていないと負荷試験食を食べきれないことがあります。負荷試験前の4時間程度は食事を控えてください。ただし、小さいお子さんの場合には、空腹で機嫌が悪くなることもあるため軽めの食事(ミルクや母乳を含む)は可能です。
- 負荷試験中は全身の診察を何度も行いますので、脱ぎやすい服装でお越しください。

西暦 年 月 日

説明者: _____ (自筆)

食物経口負荷試験に関する同意書

() 殿

私、_____は、(説明者) _____氏から、「食物経口負荷試験に関する説明書」に記された内容について、十分な説明を受けるとともに質問する機会を得ました。この説明により予定されている食物経口負荷試験について、

理解しました。担当医師の指示による実施に同意します。

理解しましたが実施することに同意しません。

西暦 年 月 日

患者： _____ (自筆) 代筆

代諾者： _____ (自筆) (続柄： _____)